



かわた たかし
河田 隆

職名・職位 副学長・教授

担当科目 幼児体育、教材研究（運動と健康）、
レクリエーション概論、野外活動Ⅰ・Ⅱ
現代教養講座Ⅳ（全人教育）
卒業研究

学 位 1979年3月体育学士（日本体育大学）
2017年3月学士（教養）（放送大学）

研究分野 健康・スポーツ科学

研究キーワード 体育科教育、野外教育、健康教育、レジャー・レクリエーション

研究業績

- | | | |
|----|----------|--|
| 著書 | 1988年 8月 | 『みんなで遊ぼう』（共著，遊戯社） |
| | 1998年 9月 | 『レクリエーション・ワーク』（編著，同文書院） |
| | 2007年 4月 | 『幼児体育教本』（編著，同文書院） |
| | 2010年 2月 | 『福祉のための家政学』（共著，建帛社） |
| | 2010年 3月 | 『生活支援のための調理実習』（共著，建帛社） |
| 論文 | 1988年 4月 | 「幼児体育におけるマット指導に関する一考察」（共著，第一保育短期大学紀要第5号） |
| | 1991年 3月 | 「掛川市における余暇支援システムの在り方の一考察」（共著，日本レクリエーション協会レジャー・レクリエーション研究所） |
| | 1993年12月 | 「イベント運営におけるウォークラリー参加者の評価に関する研究（Ⅲ）」（共著，聖徳大学研究紀要短期大学部第26号（Ⅰ）） |
| | 1997年12月 | 「大学体育におけるマネジメントに関する基礎的研究—スキー実習を対象として—（Ⅲ）」（共著，聖徳大学研究紀要短期大学部第30号（Ⅰ）） |
| | 2007年 3月 | 「介護福祉士養成とレクリエーションについて」（共著，宇都宮短期大学人間福祉学科研究紀要第5号） |
| | 2010年 3月 | 「コミュニケーション・スキルに関する一考察」（単著，宇都宮短期大学人間福祉学科研究紀要8号） |

- 社会的活動
- | | |
|----------|----------------------------------|
| 2010年 4月 | 宇都宮市社会教育委員（現在に至る） |
| 2012年 4月 | 公益財団法人宇都宮市スポーツ振興財団評議員（議長）（現在に至る） |
| 2015年 4月 | 宇都宮市社会教育委員会委員長（現在に至る） |
| 2016年 4月 | 栃木県子どもの体力推進検討委員会副委員長（現在に至る） |
| 2016年 4月 | 栃木県民公園福祉協会評議員（現在に至る） |
| 2017年 4月 | 宇都宮市子ども・子育て会議委員会委員長（現在に至る） |
| 2021年 4月 | 那須塩原市市民大学運営委員長（現在に至る） |
| 2022年 4月 | 幼児期からの運動遊び普及検討委員会委員長（現在に至る） |
| 2022年 4月 | スポーツの活用による地域活性化推進協議会委員（現在に至る） |

- 略 歴
- | | |
|----------|-------------------------------|
| 1979年 3月 | 日本体育大学体育学部体育学科卒業 |
| 2017年 3月 | 放送大学教養学部心理と教育コース卒業 |
| 1980年 4月 | 第一保育短期大学幼児教育科専任講師（1988年3月まで） |
| 1988年 4月 | 聖徳学園短期大学初等教育学科専任講師（1991年3月まで） |
| 1991年 4月 | 聖徳大学短期大学部初等教育学科助教授（1998年3月まで） |
| 2001年 4月 | 宇都宮短期大学人間福祉学科教授（2011年3月まで） |
| 2011年 4月 | 宇都宮共和大学子ども生活学部教授（現在に至る） |
| 2011年 4月 | 宇都宮短期大学人間福祉学科兼任講師（現在に至る） |
| 2017年 4月 | 宇都宮共和大学子ども生活学部学部長（2023年3月まで） |
| 2023年 4月 | 宇都宮共和大学副学長（現在に至る） |

所属学会 日本保育学会、日本体育学会、日本レジャー・レクリエーション学会、日本社会福祉学会

学生・社会へのメッセージ 社会的価値観の高い学生教育に全力を傾けています。ホスピタリティ能力があり、すべての対象者に対して、心地よい人間関係を想像できるコミュニケーション能力の高い社会人になりましょう。



すぎもと たいへい
杉本 太平

職名・職位 学部長・教授

担当科目 子ども生活概論、現代の教養講座Ⅳ、人間とは何か、人間と心理、コミュニケーションの心理学、保育内容人間関係、子ども家庭支援の心理学、子ども家庭支援論、保育相談、海外保育研修Ⅰ、保育教職実践演習、卒業研究指導Ⅰ、卒業研究指導Ⅱ、卒業研究指導Ⅲ、卒業研究

学 位 1990年3月 社会学学士（文教大学）

研究分野 教育心理学、社会心理学、社会学関連、子ども学

研究キーワード 人間関係・関係学、保育・教育相談、子育て支援、行為法・心理劇

研究業績

著 書

2005年 3月 『精神保健—子どもと家族の援助のために—』（共著，樹村房）
2017年 3月 『人間関係ハンドブック』（共著，福村出版）
2022年 1月 『子育てアドバイザー検定—試験公式テキスト基礎編—』（監修・共著，ファストブック）

論 文

1994年 5月 「不登校の相談事例『本物を探す旅』—家庭と学校と教育相談との連携の中で—」（単著，文京区教育センター紀要 第28集）
1996年 4月 「A Developmental Support System for Schoolchildren in the Bunkyo-ku Educational Center文京区教育センターにおける学校児童・生徒への発達援助システム」（共著，アジア児童・青年精神医学会国際大会）
1996年 5月 「教育相談における親グループ活動（1）」（単著，文京区教育センター紀要 第30集）
1998年 6月 「教育相談における親グループ活動（2）」（単著，文京区教育センター紀要 第32集）
1999年 8月 「不登校事例における訪問相談について—子どもと家族への援助—」（単著，文京区教育センター紀要 第33集）
2001年12月 「地域に拓く心理劇の実践例報告—参加者の「気づき」に関する関係学的考察を中心として—」（単著，日本心理劇学会「心理劇」第6巻第1号）
2007年12月 「養成課程の大綱化と養成校の独自性—東京教育専門学校の取り組み—」（単著，東京教育専門学校紀要 第6号）
2011年 3月 「現代における子育ての実態と子育て支援・援助の今日的課題と課題についての研究」（単著，東京福祉大学大学院修士論文）
2013年12月 「現代における子育ての実態と子育て支援・援助の今日的課題と課題についての研究—育児不安感とメディア依存との関連性に関する基礎調査から—」（単著，東京教育専門学校紀要 第9号）
2019年 3月 「大学における子育て支援活動の意義—子どもの体験と学生の学びに焦点を当てて—」（共著，保育・教育・福祉研究 第17号）

社会的活動

1991年 4月 東京都文京区教育センター教育相談専門員（心理）として同区教育委員会のスクールカウンセラー研修および教育相談部会の指導助言者を務める。（1998年9月まで）
1997年 4月 埼玉県家庭教育アドバイザー養成講座の講師を務める。（現在に至る）
2012年 4月 日本関係学会研修委員会委員長・同学会運営委員を務める。（現在に至る）
2010年 4月 日本人間関係学会「関東地区会」会長として研修会を主宰。（2019年3月まで）
2017年 4月 NPO日本子育てアドバイザー協会の講師を務める。（現在に至る）
2020年 4月 人間関係・HRST研究会会長として研修会を主宰。（現在に至る）
2024年 4月 日本人間関係学会「人間関係士」資格委員会委員長。同学会理事（現在に至る）
2024年 8月 栃木県家庭教育オピニオンリーダー研修の講師を務める。（現在に至る）

略 歴

1990年 3月 文教大学人間科学部人間科学科卒業
1991年 3月 文教大学人間科学部人間科学科研究生課程修了
2020年 3月 東京福祉大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻博士課程前期（満期退学）
1991年 4月 東京都文京区教育センター 教育相談専門員（心理）（1998年9月まで）
1997年 4月 埼玉県川越市乳幼児健康診査 心理相談員（2018年3月まで）
2000年 4月 和田実学園 東京教育専門学校 専任講師（2015年3月まで）
2007年 4月 埼玉県入間市乳幼児健康診査 心理相談員（2020年3月まで）
2015年 4月 宇都宮共和大学子ども生活学部 准教授（2018年3月まで）
2019年 4月 宇都宮共和大学子ども生活学部 教授（～現在に至る）
2023年 3月 宇都宮共和大学子ども生活学部 学部長（～現在に至る）

所属学会

日本関係学会、日本人間関係学会、日本心理劇学会、日本心理臨床学会、日本認定心理士会、日本保育学会

学生・社会へのメッセージ

理論と実践のバランスを図り、実践に活かせる学びが得られる独自のアクティブラーニングの教授方法（HRST）の開拓・改善に努めてきました。学生の皆さんには、自分自身含めて人間存在や人間関係を広く・深く追求することができるようになって欲しいと願っています。



かつらぎ なみ
桂木 奈巳

職名・職位 学科長・教授

担当科目 生活講座Ⅰ、生活技術演習Ⅰ・Ⅱ、
保育内容環境、子どもと生活演習、
子どもと自然環境、フィールドワーク
Ⅰ、保育内容総合演習Ⅲ・Ⅳ、
卒業研究指導Ⅰ、卒業研究指導Ⅱ
卒業研究指導Ⅲ、卒業研究

学位 1997年3月 博士(学術)
(共立女子大学)

研究分野 生活科学、子ども学

研究キーワード 生活科学、自然環境教育

研究業績

著書 2006年4月 『介護福祉のための家政学実習』(共著, 建帛社)
2014年3月 『保育実践に生かす保育内容「環境」』(共著, 保育出版社)
2017年4月 『福祉のための家政学』(共著, 建帛社)
2021年3月 『保育実践に生かす保育内容環境』(共著, 教育出版社)
2022年3月 『子どもと環境—子どもの感性をひらく保育者のかかわり』(共著, 光生館)他

論文 1998年3月 「分散染料吸着による繊維の物性変化に関する研究」(共立女子大学学位論文)
1998年5月 「Effect of Ultra Light Irradiation on the Mechanical Property of Nylon6
Fiber Undyed and Dyed with C. I. Disperse Orange3」(共著, J. Home, Ecom, Japan,
50, p723-727)
1998年11月 「紫外線照射したナイロン6繊維のTL曲線と強伸度挙動について」(共著, 繊維
学会誌, 53, p489-493)
2008年9月 「生活援助と家政学-2009年度からの新カリキュラムにおける家政学の位置づけ」
(共著, 介護福祉学, 16-2, p189-p208)
2009年3月 「虫嫌い解消のための一考察」(単著, 宇都宮短期大学人間福祉学科研究紀要,
7, p21~30)
2012年3月 「自然への感性を育む保育者養成教育」(共著, 精華女子短期大学紀要, 38, p1-8)
2016年3月 「子どもの生物多様性理解のための「大型生態ピラミッド・マット」の制作と活用」
(共著, 保育・教育・福祉研究, 14, p1-9)
2020年3月 「ヤママユの飼育がもたらす教育的効果とITC教材化の試み」(共著, 子ども生活学
研究, 18, p41-48 他)

社会的活動 1998年3月 財団法人 衣服研究振興会 衣服研究奨励賞受賞
2000年6月 日本家政学会 奨励賞受賞
2003年4月 科学研究費補助金(基盤研究(C)(2)15500529)「生活の自立支援ができる介護福
祉士養成のための家政系科目の授業内容に関する研究」(2004年3月まで)
2007年12月 介護福祉学会研究助成「生活援助と家政学~2009年度からの新カリキュラムにお
ける家政学の位置づけ~」
2017年12月 宇都宮市環境審議会 委員(2023年12月まで)
2022年4月 第2次宇都宮市緑の基本計画策定懇談会 委員(2023年3月まで) 他

略歴 1994年3月 共立女子大学大学院家政学研究科被服学専攻 修士課程 修了
1997年3月 共立女子大学大学院博士課程家政学研究科人間学専攻 博士後期課程 修了
2000年4月 東京工業大学工学部 高分子・有機材料工学科 研究生(2001年3月まで)
1997年4月 共立女子大学家政学部教育助手(2000年3月まで)
2001年4月 宇都宮短期大学人間福祉学科 助手
2011年4月 宇都宮共和大学子ども生活学部 専任講師
2011年10月 東洋大学ライフデザイン学部生活支援学科 兼任講師(2015年3月まで)
2018年4月 宇都宮共和大学子ども生活学部 教授(現在に至る)
2021年4月 獨協医科大学看護学部看護学科 兼任講師(現在に至る)
2023年4月 宇都宮共和大学子ども生活学部 学科長(現在に至る)

所属学会 日本保育学会、日本家政学会、日本環境教育学会

学生・社会へのメッセージ 身近にある小さなものにも美を感じ、感激できる学生を育てたいと考えています。身近な自然にふれあい、自ら様々な発見を楽しんでいます。森林の保全活動にも取り組み、子どもと自然をつなぐ活動を行っています。



たぶち みつよ
田渕 光与

職名・職位 教授

担当科目 保育・教育課程論、保育・教職実践演習、保育内容「健康」、保育内容「言葉」、保育指導法Ⅱ、教育実習指導、保育内容総合演習Ⅳ、現代の教養講座Ⅲ、環境と資源、卒業研究指導Ⅰ、卒業研究指導Ⅱ、卒業研究指導Ⅲ、卒業研究

学位 1980年3月 教育学学士
(宇都宮大学)

研究分野 子ども学 教育学

研究キーワード 保育の内容・方法 教育経営 教育方法学 子ども学

研究業績

- 著書 2015年3月 『幼稚園教諭・保育教諭のための研修ガイド』（共著、保育教諭養成課程研究会）
- 論文 2021年3月 「保育者養成課程に在籍する大学生の感染症に関する意識調査」（単著、子ども生活学研究 第19号）

社会的活動

- 2011年4月 栃木県幼・保・小連携推進会議委員（2013年3月まで）
- 2012年4月 宇都宮市男女共同参画審議会委員（2013年3月まで）
- 2012年4月 全国教育美術展栃木支部長（2013年3月まで）
- 2012年4月 栃木県小学校教育研究会図画工作部会長（2013年3月まで）
- 2016年4月 さくら市ひと・まち・しごと創成総合戦略会議委員（2019年3月まで）
- 2016年4月 さくら市教育支援委員会委員（2019年3月まで）
- 2016年4月 さくら市子ども子育て会議委員（2019年3月まで）
- 2020年8月 栃木県幼稚園連合会教育研究大会助言者（2023年まで）
- 2019年6月 那須町保育課保育所主任研修講師（2023年3月まで）
- 2020年4月 とちぎの幼小カリキュラム接続プロジェクト講師（現在に至る）
- 2020年6月 宇都宮市東生涯学習センター子育て講座講師
- 2020年9月 学校法人江東学園園内研修講師（現在に至る）
- 2020年10月 栃木県幼稚園連合会資質向上研修会 ECEQ コーディネーター（現在に至る）
- 2021年9月 那須塩原市幼・保・小連絡協議会講師
- 2023年4月 那須塩原町男女共同参画審議会委員（現在に至る）
- 2023年6月 宇都宮市北生涯学習センター子育て講座講師
- 2023年8月 宇都宮市東生涯学習センター子育て講座講師
- 2024年1月 宇都宮市社会福祉施設等事業者選考専門委員（現在に至る）

略歴

- 1980年3月 宇都宮大学教育学部卒業
- 1980年4月 宇都宮市立小学校教諭
- 1998年4月 栃木県教育委員会義務教育課指導主事（幼児教育担当）
- 2001年4月 栃木県教育委員会総務課指導主事
- 2002年4月 栃木県幼児教育センター指導主事
- 2007年4月 宇都宮市立小学校教頭
- 2010年4月 宇都宮市立小学校校長
- 2013年4月 栃木県幼児教育センター長
- 2015年10月 学校法人氏家幼稚園園長
- 2019年4月 宇都宮共和大学子ども生活学部教授（現在に至る）

所属学会 日本認知科学会 日本幼児教育学会 日本家政学会

学生・社会へのメッセージ 子どもとともに学び、立ち止まり、考え、自分のキャリアを積み重ねていく保育者になってほしいと考えています。



かにえ のりこ
蟹江 教子

職名・職位 教授

担当科目 社会福祉、職業と家庭生活の設計、フィールドワーク、研究方法の基礎、卒業研究指導Ⅰ、卒業研究指導Ⅱ、卒業研究指導Ⅲ、卒業研究

学位 2009年3月 博士(社会科学)
(お茶の水女子大学)

研究分野 社会学、生活科学

研究キーワード 子どもの発達と家族環境、女性と仕事、ワークライフバランス

研究業績

- | | |
|----|--|
| 著書 | 1997年10月 『リーディングス日本の労働(6)』(共著, 日本労働研究機構) |
| | 2006年3月 『青少年期の家族と教育—家庭科教育からの展望—』(共著, 家政教育社) |
| | 2013年5月 『学力格差に挑む』(共著, 金子書房) |
| | 2016年3月 『首都圏女性のキャリアと子育て—新しい働き方をめざして—』(共著, お茶の水芸術事業会) |
| | 2018年10月 『現代家族を読み解く12章』(共著, 丸善出版) |
| 論文 | 2006年2月 「未就学児を持つ共稼ぎ夫婦における疲労症状」(単著, 家族社会学研究 Vol. 17, No. 2, p59-67) |
| | 2013年3月 「児童生徒の進路希望と学校外教育」(単著, お茶の水女子大学発行 JELS 第16集 細分析論文集(3) P9~16) |
| | 2015年3月 「高3時における「希望する学歴」の経年比較」(単著, お茶の水女子大学発行 JELS 第18集 細分析論文集(5) P53~59) |
| | 2018年3月 「園外教育は有効か?」(単著, お茶の水女子大学発行 JELS 第19集 細分析論文集(7)) |
| | 2020年3月 「金融に関する知識と行動との関連についての検討: 収入・支出の把握から考える」(共著, 実践女子大学生生活科学部紀要, 第58号) |
| | 2024年2月 「青少年期から成人期への移行についての追跡的研究 JELS 第二期調査 第三次報告」(共著, 桃山学院大学社会学論集, 57巻2号) |

- | | |
|-------|--|
| 社会的活動 | 2015年7月 宇都宮市男女共同参画審議会委員(現在に至る) |
| | 2018年4月 栃木県高齢・障害・求職者支援機構運営協議会委員(現在に至る) |
| | 2019年4月 栃木県職業能力開発審議会委員(現在に至る) |
| | 2022年4月 栃木県男女共同参画審議会委員(現在に至る) |

- | | |
|----|---------------------------------------|
| 略歴 | 2009年3月 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程 修了 |
| | 2008年9月 実践女子大学 非常勤講師(現在に至る) |
| | 2010年4月 こども教育宝仙大学 非常勤講師(2019年9月まで) |
| | 2011年4月 宇都宮共和大学子ども生活学部 准教授(2016年3月まで) |
| | 2016年4月 宇都宮共和大学子ども生活学部 教授(現在に至る) |
| | 2016年4月 東京家政大学 非常勤講師(2018年9月まで) |
| | 2023年9月 法政大学 非常勤講師(現在に至る) |

所属学会 日本家族社会学会、日本保育学会、日本家政学会、日本社会学会、日本教育社会学会、国際家政学会(IFHE)、アジア家政学会(ARAHE)

学生・社会へのメッセージ 発達心理学によると人間はいくつになっても発達し続けるそうです。是非、自ら被験者となって実証したいと思います。学生のみなさんは学問的発達の真っ只中です。大学4年間で成功や失敗、様々な経験をして自らの価値を高めてください。



つきはし はるみ
月橋 春美

職名・職位 教授

担当科目 スポーツと健康Ⅱ、レクリエーション演習Ⅰ・Ⅱ、保育内容表現、野外活動Ⅰ・Ⅱ、保育内容総合演習Ⅱ・Ⅲ、卒業研究指導Ⅰ、卒業研究指導Ⅱ、卒業研究指導Ⅲ、卒業研究

学位 1997年3月 修士(教育学)
(東京学芸大学)

研究分野 健康・スポーツ科学、教育学

研究キーワード スポーツ科学、レクリエーション学、野外教育学、教育方法学

研究業績

- | | | |
|----|---------|---|
| 著書 | 2007年1月 | 『輝いて生きるためのウエルネス』(共著, ほうずき書籍) |
| | 2007年4月 | 『幼児体育教本』(共著, 同文書院) |
| 論文 | 2006年3月 | 「福祉領域における『生活のレクリエーション化』について」(共著, 宇都宮短期大学人間福祉学科研究紀要, 第4号, p31-42) |
| | 2007年3月 | 「介護福祉士養成とレクリエーションについて」(共著, 宇都宮短期大学人間福祉学科研究紀要, 第5号, p67-75) |
| | 2008年3月 | 「福祉現場におけるレクリエーション活動の必要性について—レクリエーション講座参加者のアンケート結果から—」(共著, 宇都宮短期大学人間福祉学科研究紀要, 第6号, p99-109) |
| | 2009年3月 | 「福祉現場におけるレクリエーション活動の取り組みについて—福祉レクリエーション・ワーカー資格取得希望学生のアンケート結果から—」(単著, 宇都宮短期大学人間福祉学科研究紀要, 第7号, p39-49) |
| | 2010年3月 | 「保育者養成とレクリエーションについて」(単著, 宇都宮短期大学人間福祉学科研究紀要, 第8号, p27-33) |
| | 2011年3月 | 「保育者養成校における表現力を高める身体表現の指導について」(単著, 宇都宮短期大学人間福祉学科研究紀要, 第9号, p13-22) |
| | 2013年3月 | 「子ども生活学部におけるフィールドワークⅠ・Ⅱ」(共著, 保育・教育・福祉研究, 第11号, p159-174) |
| | 2015年3月 | 「フィールドワークⅡ 実践報告」(共著, 保育・教育・福祉研究, 第13号, p39-47) 「レクリエーション参加者が感じる『楽しい』について—レクリエーション演習Ⅱの授業を通して—」(単著, 保育・教育・福祉研究, 第13号, p49-57) |
| | 2020年3月 | 「『心を元気にすること』を目的にしたレクリエーションについて—学生の振り返りシートより—」(単著, 子ども生活学研究, 第18号, p31-40) |
| | 2023年3月 | 「ウエルネスクャンプの現状と課題」(単著, 子ども生活学研究, 第21号, p33-40) |

社会的活動

- | | |
|---------|-----------------------------|
| 2012年4月 | (公社)日本キャンプ協会運営委員(2020年3月まで) |
| 2012年4月 | 栃木県キャンプ協会理事(現在に至る) |
| 2014年7月 | 栃木県レクリエーション協会理事(現在に至る) |
| 2014年7月 | 栃木県スポーツ推進審議会委員(2017年6月まで) |
| 2017年7月 | 栃木県スポーツ推進審議会会長(2021年6月まで) |
| 2018年4月 | 宇都宮市冒険活動運営協議会委員(現在に至る) |
| 2022年7月 | 幼児期からの運動遊び普及検討委員(現在に至る) |

略歴

- | | |
|---------|-----------------------------------|
| 1992年3月 | 日本女子体育大学体育学部卒業 |
| 1997年3月 | 東京学芸大学大学院教育学研究科保健体育教育専攻運動学第二分野 修了 |
| 1992年4月 | 聖徳大学短期大学部 専任助手(1995年3月まで) |
| 2001年4月 | 宇都宮短期大学人間福祉学科 専任講師(2009年3月まで) |
| 2009年4月 | 宇都宮短期大学人間福祉学科 准教授(2011年3月まで) |
| 2011年4月 | 宇都宮共和大学子ども生活学部 准教授(2017年3月まで) |
| 2017年4月 | 宇都宮共和大学子ども生活学部 教授(現在に至る) |

所属学会

日本体育・スポーツ・健康学会、北関東体育学会、日本保育学会、日本レジャー・レクリエーション学会、日本野外教育学会

学生・社会へのメッセージ

コミュニケーションを大切に、授業や学生指導を行っています。授業では、主体である学生たちの気持ちになり、目的を持って援助することの大切さを伝えています。また、何事においても、伝えることではなく伝わるのが大切であることも学生たちに伝えています。



いちかわ まい
市川 舞

職名・職位 教授

担当科目 保育原理、保育内容総論、子ども理解と評価、保育内容総合演習Ⅰ、保育内容総合演習Ⅲ、保育内容総合演習Ⅳ、実習事前事後演習、教育実習、保育・教職実践演習、子どもとおもちゃ、卒業研究指導Ⅰ、卒業研究指導Ⅱ、卒業研究指導Ⅲ、卒業研究

学位 2003年3月 修士(家政学)
(大妻女子大学)

研究分野 教育学、子ども学

研究キーワード 保育学、子ども学

研究業績

- | | | |
|----|----------|--|
| 著書 | 2011年12月 | 『演習 保育方法の探究』(共著, 建帛社) |
| | 2015年 9月 | 『<ねらい>と<内容>から学ぶ保育内容領域健康』(共著, わかば社) |
| | 2016年 9月 | 『コンパス保育内容総論第2版』(共著, 建帛社) |
| | 2018年 3月 | 『保育方法論』(共著, 光生館) |
| | 2018年 3月 | 『教育課程論』(共著, 光生館) |
| | 2019年 2月 | 『幼児理解の理論と方法』(共著, 光生館) |
| | 2022年 3月 | 『子どもと環境—子どもの感性をひらく保育者の関わり—』(共著, 光生館) |
| 論文 | 2010年 3月 | 「保育者養成の課題(1) —保育現場と学生が求める「保育者の資質・専門性」—」(共著, 宇都宮短期大学人間福祉学科研究紀要第8号P59~67) |
| | 2010年 3月 | 「保育者養成の課題(2) —学生の生活力の実態—」(共著, 宇都宮短期大学人間福祉学科研究紀要第8号P69~75) |
| | 2013年 3月 | 「大学生における養護性の形成の検討—地域・専攻の比較から—」(単著, 保育・教育・福祉研究, 第11号, p45-58) |
| | 2013年 3月 | 「児童館を中心とした中学生と赤ちゃんのふれあい交流事業—高根沢町児童館きのこのもりにおける実践を通して—」(共著, 保育・教育・福祉研究, 第11号, p9-24) |
| | 2023年 3月 | 「子どもの人権擁護に関する現状と課題—運営適正化委員会事業報告の検討から—」(共著, 子ども生活学研究, 第21号, p23-32) |

社会的活動

- | | |
|----------|-----------------------------|
| 2016年11月 | 宇都宮大学教育学部附属幼稚園公開研究会 講師 |
| 2017年 2月 | 宇都宮大学教育学部附属幼稚園「保育を語る会」指導助言者 |
| 2017年 8月 | 第64回栃木県幼稚園教育研究大会第2分科会指導助言者 |
| 2022年 4月 | 宇都宮市都市計画審議会委員 |
| 2022年 6月 | 栃木県幼稚園連合会芳賀地区研修会講師 |
| 2022年 8月 | 第69回栃木県幼稚園教育研究大会第7分科会指導助言者 |
| 2023年 6月 | 栃木県幼稚園連合会芳賀地区研修会講師 |
| 2023年 8月 | 第70回栃木県幼稚園教育研究大会第7分科会指導助言者 |
| 2023年 8月 | 那須塩原市民大学・宇都宮共和大学連携講座 講師 |

略歴

- | | |
|----------|---------------------------------|
| 2003年 3月 | 大妻女子大学大学院家政学研究科児童学専攻 修了 |
| 2003年 4月 | 大妻女子大学大学院家政学研究科 研究生(～2005年3月まで) |
| 2004年 4月 | 宇都宮短期大学人間福祉学科 非常勤講師(～2005年3月まで) |
| 2005年 4月 | 宇都宮短期大学人間福祉学科 専任講師(～2011年3月まで) |
| 2011年 4月 | 宇都宮共和大学子ども生活学部 専任講師(～2018年3月まで) |
| 2018年 4月 | 宇都宮共和大学子ども生活学部 准教授(～2024年3月まで) |
| 2024年 4月 | 宇都宮共和大学子ども生活学部 教授(現在に至る) |

所属学会

日本保育学会、日本保育者養成教育学会、日本乳幼児教育・保育者養成学会

学生・社会へのメッセージ

身近なことやふとしたことに気付き、面白がることのできる柔らかな心で、ともに学び合いましょう



いしもと まき
石本 真紀

職名・職位 准教授

担当科目 子ども家庭福祉、社会的養護Ⅰ・Ⅱ、子どもの生活と福祉、フィールドワークⅡ、現代の教養講座Ⅱ、実習事前事後演習、保育実習指導Ⅰ・Ⅲ（施設）、保育実習Ⅰ・Ⅲ（施設）、卒業研究指導Ⅰ、卒業研究指導Ⅱ、卒業研究指導Ⅲ、卒業研究

学位 2002年3月 修士（福祉マネジメント）
（日本福祉大学）

研究分野 社会福祉学 子ども学

研究キーワード 子ども家庭福祉 社会的養護 子ども・家庭支援

研究業績

- | | | | |
|----------|----------|--|---|
| 著 書 | 2006年 1月 | 『保育・教育実習 フィールドで学ぼう』（共著，同文書院） | |
| | 2007年 4月 | 『事例で学ぶ4 社会福祉援助技術Ⅲ』児童・家庭編（共著，学文社） | |
| | 2013年12月 | 『新版知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設 実習ガイド』（共著，同文書院） | |
| | 2017年 1月 | 『現代の保育と社会的養護』（共著，学文社） | |
| | 2020年 4月 | 『子育て支援「子どもが育つ」をともに支える』（共著，北樹出版） | |
| | 2022年 4月 | 『社会的養護Ⅰ「新しい社会的養育ビジョン」の理解に向けて』（共著，同文書院） | |
| | 2022年 7月 | 『災害、感染症から学ぶ、子ども・保護者が安心できる園づくり』（共著，ぎょうせい） | |
| | 論 文 | 2003年 3月 | 「学生の成長によりそうことの重要性ー『現場実習に関する意識調査』からみた社会福祉実習室の役割とは」（共著，中京大学社会学部紀要第18巻第2号） |
| | | 2008年 3月 | 「授業研究 - 実習の効果を高める科目間の連携指導について」（共著，宇都宮短期大学人間福祉学科 研究紀要第6号 P23-40） |
| | | 2016年 3月 | 「新人保育者のためのリカレント教育」（単著，保育・教育・福祉研究第14号 P83-91） |
| 2019年 3月 | | 「地域における子育て支援・子どもの居場所での実践報告」（単著，保育・教育・福祉研究第17号 67-74） | |

社会的活動

- | | |
|----------|--|
| 2017年11月 | 第8回こどもの虐待をなくそう県民のつどい パネラー |
| 2018年 1月 | 佐野市わくわく子育て講座講師 |
| 2018年11月 | 栃木県家庭教育オピニオンリーダー研修講師 |
| 2019年 6月 | 栃木県福祉人材・研修センター運営委員会講師 |
| 2020年11月 | とちぎユースアフターケア事業協同組合研修講師 |
| 2020年11月 | 品川区のびしなプロフェッショナルスクール研修講師 |
| 2021年 7月 | 栃木県家庭教育、子育て支援関係広域ネットワーク研修講師 |
| 2021年11月 | 栃木県スクールソーシャルワーカー養成研修会講師（現在に至る） |
| 2022年 9月 | 栃木県児童福祉司任用・任用前講習及び要保護児童対策調整機関の調整担当者研修講師（現在に至る） |
| 2023年 4月 | 栃木県スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー（現在に至る） |
| 2023年12月 | 栃木県スクールソーシャルワーカー研修講師 |

略 歴

- | | |
|----------|---|
| 2002年 3月 | 日本福祉大学大学院社会福祉学研究科福祉マネジメント専攻修了 |
| 1992年 4月 | 虚弱児施設（現児童養護施設）アイリス学園 児童指導員（1997年12月まで） |
| 1998年 4月 | 株式会社 エヌ・エフ・ユー（派遣先：日本福祉大学事業部企画事業室、サテライトキャンパス名古屋事務室）（2002年3月まで） |
| 2002年 4月 | 中京大学社会学部特別嘱託職員（社会学部 社会福祉実習室にて実習実務担当）（2004年1月まで） |
| 2004年 2月 | 郡山情報ビジネス専門学校教務部（社会福祉科）（2005年3月まで） |
| 2005年 4月 | 宇都宮短期大学人間福祉学科幼児福祉専攻専任講師（2012年3月まで） |
| 2012年 4月 | 宇都宮共和大学子ども生活学部専任講師（2016年3月まで） |
| 2015年10月 | 宇都宮大学教育学部兼任講師（2019年1月まで） |
| 2016年 4月 | 宇都宮共和大学子ども生活学部准教授（現在に至る） |
| 2018年 4月 | 東京家政大学短期大学部兼任講師（2019年7月まで） |

所属学会

日本社会福祉学会、日本ソーシャルワーク学会、日本子ども虐待防止学会、日本社会福祉士会

学生・社会へのメッセージ

子どもの貧困や虐待の連鎖を断つための子ども・家庭への支援に関心を持っています。人との出会いを大切に、子どもから学ぶ謙虚な姿勢を大切にして、共に学び続けましょう。



ほし じゅんこ
星 順子

職名・職位 准教授

担当科目 乳児保育 I・II、子育て支援、保育実習指導 I・II、子ども文化論、異文化理解と子育て、グローバル・コミュニケーション、海外保育研修、現代の教養講座 I、卒業研究指導 I、卒業研究指導 II、卒業研究指導 III、卒業研究

学位 2015年3月 修士（家政学）
（東京家政大学）

研究分野	保育学	
研究キーワード	保育学、子ども学	
研究業績		
著書	2009年 3月	『幼児教育ハンドブック2 -国際協力とよりよい協力活動のために-』 （共著、お茶の水女子大学グローバル協力センター）
論文	2020年 3月	『子ども家庭支援論』（共著、青鞥社）
	2014年 3月	「戦後沖縄における児童福祉の展開-敗戦後、本土復帰後、現在の社会的養護に焦点をあてて-」（『実践・困難・養護性 -保育所・施設保育士の語りと経験-』平成23～25年度科学研究費補助金基盤研究（C）研究協力員として参加）
	2014年 7月	「スリランカの子育てと保育に関する研究（1）」 （共著、東京家政大学生生活科学研究所研究報告 第37集）
	2015年 3月	「保育所における外国人の保護者への支援 -ムスリムの保護者の困難に着目して-」（修士論文 東京家政大学大学院）
	2018年 2月	「多文化時代に必要な保育者の配慮-外国人の保護者へのインタビューを通して-」（単著、新渡戸文化短期大学学術雑誌 第8号）
	2018年 2月	「シリアの幼稚園における保育者の協働-国際協力活動に見る「プレイルーム」の取り組み」（単著、新渡戸文化短期大学 子ども教育研究所紀要 第13号）
	2019年 2月	「ムスリムの保護者から見た日本の保育の良さ」（単著、新渡戸文化短期大学 子ども教育研究所紀要 第14号）
	2022年 3月	「言語文化的に多様な子どもの保育と保育者の異文化感受性 - 初任保育者と熟練保育者の語りから -」（単著、子ども生活学研究 第20号）
社会的活動	2017年 4月	中野区ファミリーサポート事業協力会員養成講座 講師（2021年3月まで）
	2017年11月	関東学院大学潜在現役保育士学び直し講座 講師
	2019年12月	JICA/鶴見大学短期大学部エジプト国別研修 講師
	2021年 6月	宇都宮市市民大学専門講座 講師
	2021年 4月	栃木県家庭教育オピニオンリーダー研修 講師（2022年3月まで）
	2021年10月	鹿沼市子ども・子育て会議委員長（現在に至る）
	2022年 2月	青年海外協力隊幼児教育ネットワーク講座 講師
	2022年10月	おやま市民大学子育てサポーター養成講座 講師（2023年9月まで）
	2023年 7月	栃木県保育協議会保育士部会研修会 講師
	2024年 1月	宇都宮市保育課乳児保育研修 講師
略歴	2015年 3月	東京家政大学大学院人間生活学総合研究科修士課程児童学児童教育学専攻修了
	1990年 4月	新宿区役所福祉部児童課区立高田馬場第二保育園保育士（1995年3月まで）
	1995年 7月	オーストラリア滞在 タスマニア大学附属語学学校等（1996年5月）
	1996年 8月	さいたま市指定家庭保育室こどものいえ保育士（1998年3月まで）
	1999年 1月	JICA青年海外協力隊 モロッコ王国 保育士（2001年4月）
	2002年 9月	NPO法人パレスチナ子どものキャンペーン レバノン・パレスチナ難民キャンプ幼児教育専門家（2003年9月まで）
	2004年 6月	東横学園女子短期大学（現：東京都市大学）子育て支援センターぴっぴ保育士（2005年12月まで）
	2006年 4月	JICA青年海外協力隊シリアアラブ共和国一般短期隊員幼児教育（2007年2月まで）
	2007年 9月	JICAシリア事務所シリアアラブ共和国幼児教育担当調整員（2010年10月まで）
	2015年 4月	認定こども園大久保わかさ子ども園非常勤保育士（2016年3月まで）
	2016年 4月	新渡戸文化短期大学生生活学科児童生活専攻専任講師（2019年3月まで）
	2016年 4月	関東学院大学非常勤講師（2019年9月まで）
	2019年 4月	宇都宮共和大学子ども生活学部准教授（現在に至る）
	2021年 4月	聖心女子大学非常勤講師（現在に至る）
所属学会	日本保育学会、日本乳幼児教育学会、日本保育者養成教育学会、国際幼児教育学会	
学生・社会へのメッセージ	自分とは異なる考え方や価値観に出会うことを大切にしながら、保育者としての「感性」を磨いていきましょう。	



おおしま みちえ
大島 美知恵

職名・職位 准教授

担当科目 音楽療法概論、音楽療法Ⅰ（基礎）、音楽療法Ⅱ（臨床）、音楽療法Ⅲ（技法）、音楽療法実習、音楽療法総合演習、音楽特講Ⅴ、リトミックⅠ、リトミックⅡ、音楽Ⅰ、音楽Ⅱ、音楽Ⅵ、音楽Ⅶ、保育実習指導Ⅰ、卒業研究指導Ⅰ、卒業研究指導Ⅱ、卒業研究指導Ⅲ、卒業研究

学 位 2020年3月 修士（人間学）
（武蔵野大学）

研究分野 音楽教育

研究キーワード 音楽療法 リトミック

研究業績

- 論文
- 2016年 3月 「ホスピス緩和ケアの音楽療法～緩和ケア病棟ミニコンサートの体験報告～」（共著，宇都宮短期大学音楽科研究紀要 第23号）
 - 2018年 3月 「音楽療法における身体活動について」（単著，宇都宮短期大学音楽科研究紀要 第25号）
 - 2020年 3月 「スピリチュアルケアとしての音楽療法」（単著，武蔵野大学大学院通信教育部特定課題論文）
 - 2020年 7月 「リトミックの視点から考える音楽と動きの関係性」（単著，うつのみや音楽療法研究会会報第29号）
 - 2021年 3月 「音・動き・ことば・描画の表現方法の関連性—表現過程からの考察—」（単著，子ども生活学研究 第19号）
 - 2023年 3月 「親子リトミック実践報告—宇都宮共和大学・宇都宮短期大学×ミナテラスとちぎ「大学連携親子ワークショッププログラム」から—」（単著，子ども生活学研究 第21号）

社会的活動

- 2008年 4月 日本音楽療法学会関東支部幹事（現在に至る）
- 2005年 4月 特定非営利活動法人リトミック研究センター栃木第一支局指導スタッフ（現在に至る）
- 2013年 5月 特定非営利活動法人リトミック研究センター栃木第二支局月例研修会講師（現在に至る）
- 2023年 4月 日本音楽療法学会関東支部事務局長（現在に至る）

略 歴

- 1991年 3月 宇都宮短期大学音楽科 卒業
- 2004年 3月 東京国際音楽療法専門学院（現国際音楽療法専門学院）卒業
- 2016年 9月 武蔵野大学通信教育部人間学部人間学科 心理学専攻 卒業
- 2020年 4月 武蔵野大学大学院通信教育部人間社会研究科 人間学専攻卒業
- 2005年 3月 日本音楽療法学会認定音楽療法士 認定
- 2005年 4月 社会福祉法人すぎの芽会デイサービスセンターすぎの芽 音楽療法士（現在に至る）
- 2006年 4月 宇都宮市子ども発達センター 若葉園 音楽療法士（現在に至る）
- 2007年 3月 リトミック研究センター附属教員養成校卒業
- 2008年 4月 社会福祉協議会 宇都宮市障がい者福祉センター音楽療法士（現在に至る）
- 2008年 4月 宇都宮市子ども発達センター かすが園 音楽療法士（現在に至る）
- 2015年 4月 社会福祉法人すぎの芽会 すぎの芽学園 音楽療法士（現在に至る）
- 2015年 4月 宇都宮短期大学音楽科 音楽療法士専攻コース 非常勤講師（現在に至る）
- 2018年 4月 宇都宮共和大学 子ども生活学部専任講師（2024年3月まで）
- 2024年 4月 宇都宮共和大学 子ども生活学部准教授（現在に至る）

所属学会

日本音楽療法学会、日本発達心理学会、日本音楽知覚認知学会、日本芸術療法学会

学生・社会へのメッセージ

音楽は人々の身体や心、認知面、社会性などに影響を与えています。また音楽は運動や映像、言葉や数字など様々な素材と一緒に活用できる多様性を持っています。音楽療法もリトミックも音楽のもつ力をこの多様性を活かしながら、人々の生活に役立てていくものです。子どもの生活の中に音楽を活用するスキルを楽しみながら学んでください。



まつおか のぶよ

松岡展世

職名・職位 准教授

担当科目 発達心理学、子どもの理解と援助、特別の支援が必要な子どもの保育、障害児保育、発達臨床心理学、保育実習Ⅰ・Ⅱ、保育実習指導Ⅰ・Ⅱ、保育・教育実践演習、現代の教養講座Ⅱ、特別支援教育、卒業研究指導Ⅰ、卒業研究指導Ⅱ、卒業研究指導Ⅲ、卒業研究

学位 1998年6月 修士(教育学)
(国際基督教大学)

研究分野 保育学、子ども学、臨床心理学

研究キーワード 子ども、遊び、保育者養成、トラウマ、子育て支援

研究業績

- | | | |
|----|----------|---|
| 論文 | 1997年12月 | 「数量概念の発達に関する縦断的研究(4)」(共著, 財発達科学研究教育センター紀要 発達研究 vol.12) |
| | 1999年 3月 | 「ダウン症児における早期療育の効果—臨界期効果の検討—」(共著, (財) 発達科学研究教育センター紀要 発達研究 vol.13) |
| | 1998年 5月 | 「過剰適応に関する一考察 - 攻撃性の表出を中心に」(単著, 国際基督教大学大学院学位論文) |
| | 2017年 9月 | 「子ども時代に外傷体験を持つ母親クライアントとの面接-自分を受け入れ娘の個性を受け入れる過程—」(単著, 作新学院大学臨床心理センター研究紀要 第10号) |
| | 2019年 9月 | 「ポリヴェーガル理論によるプレイセラピーの有効性の理解の試み—神経学的視点からの検討—」(単著, 作新学院大学臨床心理センター研究紀要 第12号) |
| | 2021年11月 | 「子育て支援の場としての5歳児健診における保護者面接」(単著, 作新学院大学臨床心理センター研究紀要 第14号) |
| | 2022年 2月 | 「つらい体験後の2歳前後の幼児の遊びに見られる治癒的な力」(単著, 作大論集 第14号) |
| | 2022年10月 | 「臨床心理学の初学者(大学生)を対象としたプレイセラピー実習」(単著, 作新学院大学臨床心理センター研究紀要 第15号) |

社会的活動

- | | | |
|--|----------|--|
| | 1996年 4月 | BBS (Big Brothers and Sisters) 少年院訪問等支援に従事(1998年3月まで) |
| | 2011年 3月 | 日本プレイセラピー協会の理事として日本ユニセフ協会と東日本大震災震災支援活動に従事(2016年3月まで)、栃木県内で震災支援活動に従事(2013年3月まで) |

略 歴

- | | | |
|--|----------|--|
| | 1998年 6月 | 国際基督教大学大学院教育学研究科博士前期課程 修了 |
| | 1998年 4月 | 東京都世田谷区教育相談室 心理教育相談員(2008年3月まで) |
| | 1998年 4月 | 東京都立中学校 スクールカウンセラー(2003年3月まで) |
| | 2007年 4月 | 東京都済生会看護専門学校 非常勤講師(2008年3月まで) |
| | 2008年 4月 | 栃木県日光市役所健康課母子健康係 臨床心理士(2023年3月まで) |
| | 2011年 4月 | 宇都宮歯科衛生士専門学校 非常勤講師(2015年3月まで) |
| | 2011年 4月 | 宇都宮市子ども発達センター 非常勤相談員(2014年3月まで) |
| | 2011年 9月 | 東京都神津島村保健センター 臨床心理士(現在に至る) |
| | 2012年 4月 | 作新学院大学大学院非常勤講師(2014年3月まで及び2020年4月~2021年3月) |
| | 2013年 4月 | 作新学院大学大学院附属臨床心理センター 非常勤相談員(令和5年3月まで) |
| | 2013年 9月 | 栃木県塩谷町健康福祉課 すくすく教室講師(現在に至る) |
| | 2020年 4月 | 明治学院大学 非常勤講師(2022年3月まで) |
| | 2021年 4月 | 明治学院大学大学院 非常勤講師(2023年3月まで) |
| | 2023年 4月 | 宇都宮共和大学 子ども生活学部 准教授(現在に至る) |

所属学会

日本保育学会、心理臨床学会、日本乳幼児精神保健学会、日本子ども学会、日本公衆衛生学会

学生・社会へのメッセージ

人生の土台となる乳幼児期の子どもに関わることは大きな喜びとチャレンジに満ちています。乳幼児の発達を理解することは今の自分を理解することにつながり、子どもや親への関わりを学ぶ中で自分を育ててくれたまわりの人や環境と改めて出会うこととなります。自分の素直な思いや気づきを大切にして、それを率直に言葉にし、共に学び合っていきましょう。



あらい ゆうこ
新井 祐子

職名・職位 准教授

担当科目 音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ、音楽理論、卒業研究指導Ⅰ、卒業研究指導Ⅱ、卒業研究指導Ⅲ、卒業研究

学位 2005年3月 修士(音楽)
(東京芸術大学)

研究分野 芸術学、音楽教育

研究キーワード ピアノ、ピアノ教育、音楽教育

研究業績

論文 2005年3月 「19世紀ロマン主義におけるブラームスピアノ作品の独自性～ブラームス的なものへの考察～」東京芸術大学大学院 修士論文

社会的活動

(講師・音楽指導)

2016年4月 佐野市生涯学習 市民教養講座 講師 (2018年3月まで)

2021年10月 大学連携親子ワークショッププログラム 第1回「親子で楽しむ音楽のおもちゃ箱」講師 ミナテラスとちぎ

2022年9月 栃木県幼稚園連合会 保育テクニカル研修 講師

2009年2月 佐野市立城東中学校 音楽鑑賞会 講師

2010年11月 飛駒・下彦間・閑馬小学校 (3校合同) 音楽鑑賞会 講師

2016年11月 旧佐野市立船津川小 音楽鑑賞会 講師

2019年11月 佐野市立田沼西中学校 音楽鑑賞家 講師

2020年11月 佐野市立田沼西中学校 音楽鑑賞家 講師

2021年11月 洗心幼稚園 (佐野市) 音楽鑑賞会 講師

2023年11月 洗心幼稚園 (佐野市) 音楽鑑賞会 講師

2021年11月 佐野市立氷室小学校 音楽鑑賞会 講師

2021年11月 佐野市立赤見小学校 音楽鑑賞会 講師 (2023年まで)

(演奏活動)

2009年4月 サラマンカホール ミュージックプロムナード (岐阜市)

2009年10月 新井 祐子 ピアノリサイタル (岐阜市)

2013年3月 足利市民プラザ アーティストシリーズ (足利市)

2016年4月 東京芸術大学同声会 栃木県支部演奏会 上野の森の響きコンサート(栃木市)

2018年10月 第10回さのクラシックコンサート 新井祐子ピアノコンサート(佐野市)

2021年7月 佐野音楽鑑賞会 (佐野市)

2022年11月 第13回さのクラシックコンサート(佐野市)

2023年2月 佐野ユネスコ協会 第14回佐野新人演奏会 ゲスト演奏(佐野市) 他

略歴 2000年3月 東京芸術大学音楽学部 器楽科 卒業

2005年3月 東京芸術大学大学院 音楽研究科 修士課程 ピアノ専攻 修了

2008年9月 オーストリア国立ウィーン音楽演劇大学 postgraduate課程 修了

2011年4月 東京家政学院大学 現代生活学部 児童学科 非常勤講師 (2018年3月まで)

2017年4月 宇都宮共和大学 子ども生活学部 非常勤講師 (2021年3月まで)

2022年4月 宇都宮共和大学 子ども生活学部 准教授 (現在に至る)

所属学会 日本保育学会、日本音楽表現学会

学生・社会へのメッセージ 子どもは音楽が大好きです。遊びながらお気に入りのメロディを口ずさんでいたり、音楽に合わせて自然に体を動かしたりします。音楽は子どもの感性を豊かにし、自分を表現するという心の発達にもつながっています。皆さんにはお気に入りの歌や音楽がありますか？音楽が好き、楽しいと思う気持ちを大切にしてください。共に楽しみながら学び合いましょう！



あべ たくみ
阿部 巧

職名・職位 専任講師

担当科目 オーラルイングリッシュⅠ・Ⅱ、グローバルコミュニケーション、海外保育研修Ⅰ・Ⅱ、卒業研究指導Ⅰ、卒業研究指導Ⅱ、卒業研究指導Ⅲ、卒業研究

学位 2008年3月 修士(教育学)
(北海道教育大学)

研究分野 外国語教育、初等中等教育、教育学

研究キーワード 小学校外国語教育、異文化理解、教員研修、授業改善

研究業績

- | | | |
|----|----------|--|
| 著書 | 2022年 7月 | 『小学校道徳365日の全授業DX』(共著, 明治図書) |
| 論文 | 2021年 3月 | 『単元計画ブック』を活用した授業作り—指導者同士の確かな連携を目指して— (共著, <i>SPELT JOURNAL</i> , vol11.) |
| | 2021年 3月 | 「Can-Doリストを活用した授業改善の試み—指導者は何を指導し, どんな変容を見取るのか—」(共著, <i>JES Journal</i> , vol12.) |
| | 2024年 3月 | 「Can-Do リストを活用した研修プログラムの開発 — 授業改善に与える効果と要因 —」(共著, <i>JES Journal</i> , vol124.) |

社会的活動

- | | |
|----------|--|
| 2021年 9月 | 北海道苫小牧市教育研究所研修講座講師 |
| 2023年 1月 | 公益財団法人 日本教育公務員弘済会北海道支部 実践論文個人部門準特選 |
| 2023年 1月 | 公益財団法人 日本教育公務員弘済会北海道支部 実践論文学校部門準特選 |
| 2023年 4月 | 北海道厚真町教育研究所英語教育部会研究協力者 |
| 2024年 4月 | 小学校英語教育学会課題研究 2024年4月~2026年3月
「個別最適な学びを実現するための教材パッケージの開発—令和6年度改訂の教科書の内容に対応して—」研究代表者: 阿部 巧 |

略歴

- | | |
|----------|------------------------------|
| 2006年 3月 | 北海道教育大学札幌校学校教育教員養成課程 卒業 |
| 2008年 3月 | 北海道教育大学大学院教育学研究科教科教育専攻 修了 |
| 2008年 4月 | 北海道公立学校 教諭 (2023年3月まで) |
| 2023年 4月 | 北海道立教育研究所 研究研修主事 (2024年3月まで) |
| 2024年 4月 | 宇都宮共和大学子ども生活学部 専任講師 (現在に至る) |

所属学会

小学校英語教育学会、実用英語教育学会、児童英語教育学会、教科教育学会

学生・社会へのメッセージ

英語の授業を担当します。授業では、皆さんが実習等で使えるよう、子どもたちが楽しめる歌や活動を多く取り入れますので、体を動かし、子どもの気持ちになって英語を学んでみましょう。また、英語を話すことを大切にしたい授業づくりに努め、英語を話す楽しさを伝えて行きたいと思っています。



しもふれ ともりのり

霜触 智紀

職名・職位 専任講師

担当科目 スポーツと健康Ⅰ・Ⅱ、レクリエーション概論、野外活動Ⅰ・Ⅱ、幼児体育、教材研究（運動と健康）、保育内容「健康」、卒業研究指導Ⅰ、卒業研究指導Ⅱ、卒業研究指導Ⅲ、卒業研究

学位 2023年3月 博士（教育学）
（新潟大学）

研究分野 健康・スポーツ科学

研究キーワード 身体教育学、スポーツ科学、応用健康科学

研究業績

- 著書 2017年12月 『保健体育に“アンガーマネジメント”を導入する』（単著、大修館書店「体育科教育」1月号 pp.54-57）
- 論文 2017年2月 「保健体育科へのアンガーマネジメントの導入意義を探るーわが国の学校教育におけるアンガーマネジメントに関する研究動向からー」（共著・筆頭、群馬大学共同教育学部紀要 芸術・技術・体育・生活科学編, 52;57-70）
- 2017年9月 「大学生のアンガーマネジメントの認知度と攻撃性・怒り表出に関する研究ー教育学部保健体育専攻生と他学部生の比較に着目してー」（共著・筆頭、北関東体育学研究, 2;3-10）
- 2018年3月 「日本の中学校・高等学校の運動部活動における体罰に関する研究動向ー顧問・指導者の怒りを取り巻く体罰の要因に着目してー」（共著・筆頭、日本教育保健学会年報, (25) ;23-38）
- 2021年12月 「運動部活動の顧問を対象とした体罰関連要因の尺度開発の試み：体罰の行為経験と意識を踏まえて」（共著・筆頭、日本部活動学会研究紀要, 4;37-49）
- 2022年10月 「運動部活動の顧問が認知する体罰関連要因と体罰行為経験との関連」（共著・筆頭、スポーツ産業学研究, 32(4);433-452）
- 2023年1月 「スキー・雪遊び体験を通じた知的障害児の支援に関する研究」（共著・筆頭、群馬大学共同教育学部紀要 芸術・技術・体育・生活科学編, 58;27-36）
- 2023年3月 「運動部活動における体罰防止の教育・研修内容に関する文献のレビュー」（共著・筆頭、日本教育保健学会年報, (30) ;55-75）
- 2023年3月 「栃木県内A保育園における親子運動遊びの質的分析」（共著・筆頭、子ども生活学研究, (21) ;15-22）

社会的活動

- 2017年4月 群馬大学陸上競技部 アドバイザー（現在に至る）
- 2022年10月 栃木県鹿沼市幼児期の運動遊び指導者指導者研修会 講師（2024年1月まで）
- 2022年10月 栃木県鹿沼市運動遊び体験指導者派遣事業 講師（2024年1月まで）
- 2023年11月 栃木県那須町運動遊び 講師（2024年1月まで）
- 2024年7月 栃木県那須町「親子運動遊び」研修会 講師
- 2023年1月 群馬大学地域貢献事業障がいのある子どもたちのスポーツ体験プロジェクト 指導者（2024年2月まで）
- 2021年6月 北関東体育学会若手研究者等研究助成事業「日本の運動部活動の顧問・指導者が認知する体罰の関連要因の検討：属性等諸条件との関連に着目して」、研究代表者（2023年6月まで）
- 2023年5月 日本レクリエーション協会課程認定校研究連絡会議研究助成事業「保育学生からみたレクリエーション学習のニーズに関する一考察」、研究代表者（2024年2月まで）

略歴

- 2015年3月 福島大学人文社会学群人間発達文化学類 卒業
- 2017年3月 群馬大学大学院教育学研究科教科教育実践専攻 修了
- 2023年3月 新潟大学大学院現代社会文化研究科人間形成研究専攻 修了
- 2018年4月 群馬大学学務部教務課教養教育係 技術補佐員（保健体育）（2022年3月まで）
- 2022年4月 宇都宮共和大学子ども生活学部 専任講師（現在に至る）

所属学会

日本体育・スポーツ・健康学会、北関東体育学会、日本学校保健学会、日本教育保健学会、日本公衆衛生学会、日本部活動学会、日本スポーツ産業学会、日本保育学会、日本レジャー・レクリエーション学会

学生・社会へのメッセージ

学生の皆さんの「生涯にわたって豊かなスポーツライフを営むための態度」の育成に努めます。また、幼児期からの運動習慣形成や中学・高校生の運動部活動を取り巻く問題等の社会的課題の解決に貢献するために研究・実践を行います。



おの たかゆき
小野 貴之

職名・職位 専任講師

担当科目 保育内容言葉、子どもの理解と援助、発達支援論、保育方法論、保育内容総合演習Ⅰ、保育内容総合演習Ⅱ、保育内容総合演習Ⅲ、保育内容総合演習Ⅳ、実習事前事後演習、保育実習Ⅰ(保育所)、保育実習Ⅰ(施設) 卒業研究指導Ⅰ、卒業研究指導Ⅱ、卒業研究指導Ⅲ、卒業研究

学 位 2017年3月 修士(教育学)
(上越教育大学)

研究分野 教育学、保育学

研究キーワード 子ども、遊び、言葉、ICT

研究業績

論文

- 2019年 3月 「幼児が物を比べることを契機とした遊びの変化についての一考察」(単著, 相模女子大学子ども教育学会「子ども教育研究」第11号, p23-29)
- 2020年11月 「コロナ禍における動画配信の効果—附属幼稚園の事例から—」(共著, 茨城大学全学教職センター茨城大学教育実践研究第39号, p347-356)
- 2021年11月 「やりたいがふくらむ保育—保育の可能性を探る—」(共著, 茨城大学全学教職センター茨城大学教育実践研究第40号, p177-187)
- 2022年11月 「幼児教育の質向上につながるICTの活用—保育の振り返りに焦点を当てて—」(共著, 茨城大学全学教職センター茨城大学教育実践研究第41号, p117-128)
- 2023年 5月 「ICT機器を活用した保育実践と保育マネジメント」(共著, 茨城大学全学教職センター研究論集2023年度版, p1-12)
- 2024年 1月 「子どもの探求心を深める教師の意識や言葉かけについて」(共著, 茨城大学全学教職センター研究論集2023年度版, p59-74)

略 歴

- 2017年 3月 上越教育大学大学院学校教育研究科学校教育専攻 修士課程 修了
- 2017年 4月 認定こども園 相模女子大学幼稚部 保育教諭(2020年3月まで)
- 2020年 4月 茨城大学教育学部附属幼稚園 研究主任(2022年3月まで)
- 2022年 4月 茨城大学教育学部附属幼稚園 教育実習主任(2023年3月まで)
- 2023年 4月 宇都宮共和大学 子ども生活学部 専任講師(現在に至る)

所属学会 相模女子大学子ども教育学会、日本保育学会、日本子ども社会学会

学生・社会へのメッセージ

認定こども園、幼稚園で勤務して学んできたことや、子どもの発想のおもしろさ等、様々なことを学生の皆さんに伝えていきたいと考えています。